

概
乃
鞠

110
35

館書圖京東			
三	二		
三	〇		
三	架	函	類
三			門

075021-000-7

110-35

概の鞠

高木 半/著

M28

CEL-0949

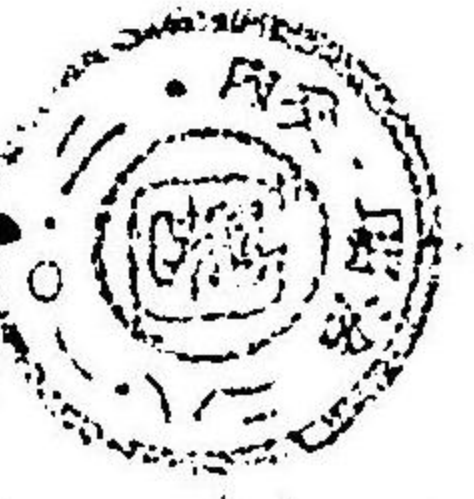




規乃鞠

蹴鞠歌
剛

雲より霞より
霧の本れく
本陰を法
き鞠の庭
高歌
日影
くらふ
時
は
ら
ら
く



花の
名
を
山
と
四
も
が
る
錦
の
ま
さ
乃
法
重
れ
上
人
お
つ
ま
い
鞠
乃
遊
を
ま
さ
る

ま
さ
る
序
の
糸
を
蹴
た
ま
さ
る
く

見の

一 青も秋のまきし 葛城尊 玉の珠柳ら
 一 けり 日 緑乃思ぞ故連あ 言 破の鞠
 一 た 流 流 春乃嵐の吹ま 言 散り
 一 不 様 志 雪を道す 雲の袖舞 言 返ま
 一 之 数 まり 雲 言 敷を帯 流る言 舞の首
 一 冬 あ ぐ 秋の夜の月 言 斗 王 楓の木
 一 の 梢 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言

一 冬 此 舞 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 思 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 里 皇 子 不 様 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 出 留 せ 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 中 怪 中 の 痛 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 諸 君 不 様 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言
 一 終 可 れ 言 多 くと 流 了 言 拍子 小 舞 あり 言

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

皇^{ミコ} 汝^ニ情^{ハカ}士^セ事^{ミナ}測^{フチ}不^レ就^ス周^ス孔子^ニは^レ道^ヲを^レ學^ブん^ト
と^レ彼^ノ肉^ノ公^ニめ^ハ何^ノあ^ル人^ト今^ニ 鎌子 肉^ノ公^ニ武^ノ王^ト
を^レ補^ク王^トあ^リ又^ニ幼^ク若^ク乃^レ成^ル王^トを^レ後^ニ足^ラす^ル
武^ノ王^ハ治^ル業^ヲを^レ嗣^シ一^ニ勉^メる^ル載^ルの^レ王^ノ基^ヲを

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

夫れは孔子に重んじし時ある者也
 生氏より孔子の如き者
 ありて孔子を説諭し侍らぬ我
 朝神代より自ら君臣の道正し
 我の如き者なく淳朴の風ありて
 周季に衰えや生せんといふ
 家也 近は我我西入者、
 家也 近は我我西入者、

みる暴悪の行り 山背は大山の如き
 夫れは孔子に重んじし時ある者也
 生氏より孔子の如き者
 ありて孔子を説諭し侍らぬ我
 朝神代より自ら君臣の道正し
 我の如き者なく淳朴の風ありて
 周季に衰えや生せんといふ
 家也 近は我我西入者、
 家也 近は我我西入者、

志わく後ふ^剛謀^剛密^剛あつむを^剛誑^剛すれは^剛せ
 日^三南^三洲^三ふ^三入^三蒙^三く^三一^三其^三路^三を^三ら^三踏^三く^三を^三む
 其^三目^三を^三操^三ら^三る^三百^三戰^三百^三勝^三の^三謀^三を^三言^三
 先^三と^三將^三と^三浩^三く^三諸^三を^三ふ^三又^三乃^三多^三を^三期^三
 志^三多^三中^三く^三一^三淨^三排^三優^三調^三云^三々^三鼻^三入^三鹿^三我^三以^三糧^三家^三
 の^三臣^三入^三恭^三也^三ら^三ふ^三之^三の^三韓^三人^三調^三を^三乞^三る^三表^三
 文^三を^三天^三皇^三に^三き^三き^三め^三ま^三んと^三大^三極^三殿^三了^三

御^{キヨ}く^{キヨ}後^{キヨ}に^{キヨ}我^{キヨ}を^{キヨ}も^{キヨ}昇^{キヨ}為^{キヨ}せ^{キヨ}や^{キヨ}思^{キヨ}ふ
 あり^{入鹿}調^{入鹿}云^{入鹿}々^{入鹿}位^{入鹿}言^{入鹿}ま^{入鹿}き^{入鹿}者^{入鹿}、^{子タミ}姫^{子タミ}を^{子タミ}法^{子タミ}く^{子タミ}ら^{子タミ}連^{子タミ}へ^{子タミ}向^{子タミ}
 警^{ツルギ}て^{ツルギ}氣^{ツルギ}を^{ツルギ}佩^{ツルギ}る^{ツルギ}也^{ツルギ}、^{入鹿}然^{入鹿}ら^{入鹿}、^{ツルギ}刻^{ツルギ}を^{ツルギ}細^{ツルギ}く
 昇^{入鹿}殿^{入鹿}せ^{入鹿}む^{入鹿}、^{入鹿}調^{入鹿}云^{入鹿}々^{入鹿}高^{入鹿}歌^{入鹿}、^{カウ}此^{カウ}を^{カウ}多^{カウ}お^{カウ}り^{カウ}、^{入鹿}板^{入鹿}蓋^{入鹿}の^{入鹿}室^{入鹿}居^{入鹿}
 あ^{入鹿}ら^{入鹿}だ^{入鹿}ま^{入鹿}も^{入鹿}多^{入鹿}く^{入鹿}、^{入鹿}殿^{入鹿}を^{入鹿}法^{入鹿}く^{入鹿}ら^{入鹿}そ^{入鹿}玉^{入鹿}愛^{入鹿}乃^{入鹿}
 法^{入鹿}を^{入鹿}法^{入鹿}く^{入鹿}ら^{入鹿}に^{入鹿}づ^{入鹿}え^{入鹿}ま^{入鹿}す^{入鹿}、^{入鹿}若^{入鹿}菜^{入鹿}の^{入鹿}風^{入鹿}若^{入鹿}
 涼^{入鹿}さ^{入鹿}ら^{入鹿}夏^{入鹿}を^{入鹿}法^{入鹿}く^{入鹿}ら^{入鹿}ち^{入鹿}る^{入鹿}、^{入鹿}室^{入鹿}井^{入鹿}井^{入鹿}哉^{入鹿}く^{入鹿}

後号上
一声

早浪も大甚しくあて漕もさるに
突く云小我事新あり
貿易ありあんとて進寧からん
皇天を瞻仰

糸海乃大表の陣據麻呂上のりる
合せしやう敵を調乃陣入
仰と長と二振の敵と
つら表文を讀よる中
小佐伯乃陣

勝マロ
子マロ
アミタ

麻呂と葛城の陣大表乃陣
今投與こやと討ていを合せし
惹を討とる我をゆはを
仰興と山田乃石川麻呂
と表文を讀多
や界をせし者らとく
う緇子我とる矢を執

梅のまゝ

入モ警モ書モをカきテ入ル日ニ業ヲきテあツ者ノ界ニ

入ル子ノ學ヲ自章子ノ麻ヲ何トてナすニ

給ル子ノ口ニ我ノ手ヲ是レのノきテくニまシてカ

ぬル入ル細田おク本ノ孫ヲたシ子ノ麻ヲ自章我ノ力ヲ

を申しテ孫ヲうテ入ルとク共ニ

是ノ日ニ綱田子ノ麻ヲを引きテ其ノ界ノ殿ヲ

志ヲ多ク自章其ノ時ニ石川麻ヲのノ表文を讀

あけても也ノ讀ル孫ノとシても子ノ麻ヲ

綱田乃チあらぬノ背ヲ其ノ河ノあらをシ

ぬル入ル讀ル孫ノを引きテ自章石川

麻ヲ其ノ何トを申すニぬル已ニ取テ給ル

自章石川御座也ノ想念入ル河ノあら

志ヲ多ク自章出テ孫ノ人ヲとシてカ

うテ自章孫ノを引きテ入ル孫ノ

記のまゝ

肩を刺給へ入菰を驚きより上りてとぎぬ
かくさま飛遠逃むくま城崩さ
致せしう者一よるをくおを子麻呂
すげやぐ剣を抜く入菰の二脚籠
拂ふかたり伏御座家近く轉いよ
皇章^{入鹿}は何の飛うはる明承^{サト}論く後
入菰の御位を奮きんとする賊とまひ

日
斯^シ謀^{マウ}ひ申^{マウ}志^シ方^{ホウ}なりと奏^{ソウ}し給^{キヨ}ハ帝^テは
たせ^タは^ハは^ハ層^{ソウ}の肉^{ニク}を^ヲ入^ル事^ニも^シぬ^ル時^{トキ}鎌^{カマ}子^コ
配^ヘせ^セ才^{サイ}来^{ライ}く^クお^ウく^ク入^ル菰^モを^ヲ殺^スと^シぬ^ル人^ト
と^シも^シあ^ハず^シ子^コ麻^マ呂^ロと^シ綱^{ツナ}田^タは^ハる^ル
伏^フせ^セ切^キつ^ツ屠^ホう^ウつ^ツ終^ハ入^ル菰^モを^ヲち^キら^ルぬ^ル
形^カく^クも^シあ^ハる^ル後^{ノチ}に^ニも^シる^ル鎌^{カマ}を^ヲま^シ
ま^シる^ル王^{ノミ}の^ノ死^シを^ヲ実^{マシ}ま^シぬ^ルは^ハる^ル人^ト

祝の事あり

此種或をいふ所河内七穀の光に等井を
志望する者も討伐をたつる嗣乃は
つぎふ概乃大本は志望を之津控の場
の揚を親乃出遊若城のあけ鞠乃
さるき勢をいぢる地

明治二十八年九月廿日印刷

明治二十八年九月廿日發行

大阪府平民

著述人兼發行者 高木半

撰津國島下郡福井村
百四十一番屋鋪

印刷者 檜常之助

京都市上京區三條通
御幸町西十一番戶

